

平成 29 年度 西が岡小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

人間尊重の教育を基盤に自ら学び，自ら考え，主体的に判断して生きていくことのできる，心身ともに健康で，心豊かな，たくましい児童を育成する。

【1】明るく元気な子ども 【2】よく考えて学習する子ども 【3】心豊かで思いやりのある子ども

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

教育目標の達成を目指し，子どもの自主性を育て，希望に満ちた明るく，楽しい学校づくりをするために，全職員が和と協力，熱意，そして人間尊重の精神を基盤に『生きる力』を育む教育に取組み，活力に満ちた特色ある学校経営を推進する。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 一人一人のよさを認め，インクルーシブ教育を基軸に据えた居がいのある学校・学級づくり，自主性を育てる教育活動の展開に努める。 (学級経営の充実)
- (2) 授業の充実と学習習慣の定着を図り，学ぶことの楽しさや成就感を体得させ，自ら学ぶ態度の育成と基礎・基本の確実な定着に努める。 (学習指導の充実)
- (3) ○情操豊かな教育環境と道德教育の充実を図り，「生命や人権を大切にする心」「思いやりの心」を育み，心豊かでたくましい子どもの育成に努める。 (心の教育の推進)
- (4) 全教職員の共通理解のもと，児童との信頼関係を深め，日常の指導と家庭との連携を通して，規範意識の醸成と基本的生活習慣の確立に努める。 (児童指導の充実)
- (5) 進んで運動に親しむ体育指導と，健やかな体を育む食育・保健指導の充実を図り，健康・体力の向上に努める。 (体力の向上と保健安全教育・食育の充実)
- (6) ○学校園として認め励ます指導を通して自尊感情を育み，学習や活動の交流を図り，小中一貫教育を推進する。 (小中一貫教育の推進)
- (7) 常に自己の資質向上に努め，子どもや保護者から信頼される教職員集団を目指す。(教職員の資質の向上)
- (8) 家庭や地域との連携と情報発信の充実に努め，地域とともにある学校づくりの推進に努める。
(家庭・地域との連携・地域とともにある学校づくり)

【宝木地域学校園教育ビジョン】 「いきいき宝木」心豊かな宝木っ子の育成をめざして

- 豊かな心の育成
- ・ 規範意識と自尊感情の育成
- ・ 生命を尊重し相手を思いやる態度の育成
- ・ 自然，文化，芸術に親しむ感性の育成

4 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学 校 運 営】

体験活動や道德教育，読書活動を通して豊かな心と自主性を育み，授業の充実を図り学ぶことの楽しさを実感する教育の推進に努める。

【学 習 指 導】

分かる授業を展開し学習意欲の向上に努め，家庭学習の習慣化を図り学習の定着に努める。

【児 童 生 徒 指 導】

○道德教育や学級経営の充実を図り，具体的な活動を通して「明るいあいさつ」「正しい言葉遣い」「決まりを守る態度」の育成に努める。

【健康（体力・保健・食・安全）】

体育，保健，食育指導の連携をもとに，自己の生活習慣（保健安全・食習慣・体力）を意識できる児童の育成に努める。

5 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
学校運営の状況	A 1 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケートの「私は今の学校が好きです。」→児童の肯定的回答90%以上	① 学校行事や児童会活動に児童が主体的に取り組む場を設定し、適切な指導・支援・助言をすることにより、児童の達成感・自己肯定感を高める。 ② 多様な活動や体験学習の場を設定し、児童の意欲を高める。	B	【達成状況】93.5 - 児童会企画の集会や各委員会活動等で児童の活躍の場を多数設け、児童に達成感を味わわせることができた。 - 出前授業や体験学習を積極的に取り入れたことで、児童の意欲的な取り組みにつながった。 【次年度の方針】 - 児童会活動等で児童の主体性を高め、更なる活性化を図る。
	A 2 教職員は、協力し組織の一員として熱心に教育に当たっている。 【数値指標】 全体アンケートの「教職員は協力し、生徒の良いところを認め教えるべきことを熱心に指導している」→児童の肯定的回答90%以上	① 全職員が職員会議や学年会での児童の情報交換を密にし、共通理解する。 ② 学習の進み具合を確め、よさを認めた言葉かけやつまずきにに応じた一人一人への支援を工夫し、個別支援の充実を図る。 ③ 朝の学習を活用し、担任以外も学級支援に係る。 国語・算数の基礎的・基本的な内容の繰り返し学習（漢字・計算）	B	【達成状況】98.2 「教職員は協力し、生徒の良いところを認め教えるべきことを熱心に指導している」では児童の肯定的回答が98%以上であった。 - 漢字・百マス計算・縦割り音読を取り入れ、全校で実施した。 【次年度の方針】 - 職員会議の際児童の情報交換を活用しさらに共通理解しながらきめの細かい支援を行う。 - 引き続き、朝の学習の計画的な活用を図る。
	A 3 児童は、授業と生活のきまりやマナーを守り、秩序があり安全な学校生活をしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は授業と生活のきまりを守って生活している」→児童の肯定的回答80%以上	① 全職員共通理解のもと、朝会・全校集会で全児童に話をしたり、各学級において指導したりする。 5分間休みの過ごし方 - 授業の始まりの時刻 ② 「よい子の一日」の周知徹底を図る。 - 廊下の歩行（教室移動時・休み時間） - 落ち着いた学校生活 - 終業のあいさつと次時の準備 - 遊び方の共通理解 - 清掃中、清掃後の指導の徹底 ③ 生活目標を活用し、スモールステップで目標を達成できるようにする。 - 良かった点を朝会で賞賛する。（週番） - 児童指導主任や生活当番担当教師、また代表委員児童が放送等で呼びかける。	B	【達成状況】82.5 - 教師、保護者、児童ともにきまりやマナーに対する規範意識が高まりつつある。 - 教室移動の際の廊下の歩行など全学年で指導した結果、少しずつ落ち着いた学校生活が送れるようになってきた。 【次年度の方針】 - 引き続き、きまりやマナーに対する意識の定着が図られるよう、各学級ごとに指導を徹底する。 - 児童指導主任や生活当番担当教師、また代表委員児童が放送等で呼びかける。 - 月ごとの指導の重点を決め、全職員が同一歩調で指導する。

A 4 教職員は、分かりやすい授業や一人一人へのきめ細やかな指導をしている。 【数値指標】 全体アンケートの「先生方授業は、分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」→児童の肯定的回答 90%以上	① 全職員共通理解のもと今年度の学校課題の研究を進める。 ② 授業研究を行い、指導方法の工夫改善や指導力の向上を図り、きめ細かな指導を実施する。 ・一人一授業公開 ・板書チェックリスト活用 ・ヒントカードや教材提示の工夫 ③ 具体的な学習の取組の状況や研究の様子、要請訪問などについて、学びの広場で取り上げ、学校での研究の様子を保護者に知ってもらう機会にする。 ・チャレンジウィークの実施 ・学びの広場の発信 ・西が岡小「家庭学習のすすめ」の配付 ④ ノートやワークテスト、プリントなどに励ましやアドバイス・コメントなどを入れ一人一人の意欲を高める。	【達成状況】 95.0 達成 ・「分かる・できる」授業づくりのため全職員が共通理解のもと一人1授業の公開を行ったり、個別に対応するためのヒントカードを準備したりするなど指導方法を工夫することができた。 ・西が岡学力向上プランに基づき、全職員で学力向上に向けた取り組みを実施できた。 ・学力向上専門員とともに本校児童の実態に即した指導の在り方を検討し実践できた。 【次年度の方針】 ・要請訪問・研究授業の様子などは学校 HP や「学びの広場」などで保護者に知らせ学校でどのような研究をしているか知ってもらう機会を増やす。 ・高学年では、「リレー自主学习」に取り組みせ、良い取り組みを保護者にも理解してもらえるようにする。
A 5 学校はいじめ対策を積極的に公表し、熱心に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「先生はいじめが許されないことを熱心に指導してくれる」→児童の肯定的回答 90%以上	① 教育相談を年間 2 回実施し、児童の実態の把握と早期発見に努める。 ③ 人権週間、いじめゼロ月間、いじめゼロ集会を実施するとともに保護者にも公開し、意識の啓発に努める。 ④ 全児童でいじめ防止ポスター作製に取り組み、いじめ防止の機運を盛り上げる。 ④ いじめ防止に関する資料や学校での取組を、学校便りやHPなどで地域や保護者に積極的に発信する。	【達成状況】 98.5 ・児童の肯定的回答率は 90%を超えている。また、保護者は約 10 パーセント、地域住民は約 5 % 昨年度より上昇した。 ・教職員と児童の肯定的回答が達成されると共に、保護者・地域住民の意識も高まりつつある。 【次年度の方針】 ・引き続き教育相談や定期的な情報交換会等で、児童の実態把握と問題の早期発見に努める。 ・引き続きHPや学校便り等を通して、いじめ防止に関する資料や学校での取り組みの様子を発信する。 ・児童会によるいじめゼロ集会や人権集会を通して全校でのいじめ防止運動を盛り上げる。 ・いじめゼロ集会や人権集会の公開について保護者に通知する。
A 6 学校の日課、授業、行事などの教育課程は、適切に実施されている 【数値指標】 各行事終了後や年度末にアンケートを実施し、次に生かされたか。→その都度実施	① 行事の終了後や年度末にアンケートを実施し、可能なことはすぐに改善したり、次回・次年度に生かしたりする。 ② 行事の際に、タイミングをとらえて適切に保護者や地域へ情報を発信するとともに、アンケートを実施して生かせるようにする。	【達成状況】 96.2 (保護者) ・各行事終了後には教職員にアンケートを実施し、改善点を次に生かすことができた。 【次年度の方針】 ・引き続き、行事实施後のアンケート等により、改善点を検討していく。 ・学校行事等の情報を積極的に保護者に発信していくとともに、アンケート等で意見を募る。

A 7 学校は学校便りや学校公開などで積極的に情報を発信・提供している。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、学校便りや学校公開などで積極的に情報を発信している」→保護者の肯定的回答 80%以上	① 「オープンスクール」を含め、行事や各種集会、親子活動等、積極的に学校公開を実施する。 ② 保護者や地域へ学年・学校便りで情報を発信するとともに、定期的にHPを更新していく。 ③ 様々な場面で保護者等のボランティアを積極的に導入し、開かれた学校作りを行う。	【達成状況】 97.5 ・行事や授業、集会、親子活動等、月に1回は保護者来校の機会を作った。 ・毎月の学校便りや、学年便り等により情報を発信した。 ・学校HPをこまめに更新し、保護者に今の学校の様子について知ってもらうことができるようにした。 【次年度の方針】 ・様々な場面で保護者等のボランティアを積極的に導入し、開かれた学校作りを行う。 ・引き続き、行事や親子ふれあい学習、集会等で積極的に学校公開を実施していく。
A 8 学校は家庭・地域・企業等と連携・協力して教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、家庭、地域、企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」→保護者の肯定的回答 80%以上	① 全学年で行政や企業と連携した授業を実施し、保護者にも積極的に参観を呼びかけていく。（社会科、総合的な学習の時間、学級活動、各種体験活動等） ② 「魅力ある学校づくり地域協議会」と連携して、学校運営の充実を図る。 ・安全ボランティア ・放課後子ども教室 ・体験活動 ③ 外部団体と連携した授業の様子は、積極的に分かり易く家庭・地域へ情報を発信していく。	【達成状況】 94.9 ・全学年で行政や企業と連携した授業を複数回実施することができた。 ・地域協議会と連携して実施したふるさと教室・農業体験・学習会では、昨年以上の多くのボランティアの参加があった。 【次年度の方針】 ・企業との連携の授業などは、実施計画書を保護者にも配付し、参観可能であれば参観を呼びかける。 ・外部団体と連携した授業の様子は学年便りやHP等で積極的に保護者にも知らせていく。
A 9 学校は清掃が行き届き、荷物や備品などが整理整頓され、学習しやすい環境である。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、清掃が行き届き、学習しやすい環境である」→保護者の肯定的回答 80%以上	① 清掃指導の充実（西岡タイム）と施設設備の維持管理を行う。 ・無言清掃への取り組み ・清掃強化週間や大掃除の時間の実施 ・短縮日課の際の自主清掃 ② 校内緑化（花はなタイム・教材園）を推進し、学習にふさわしいよりよい環境づくりに努める。	【達成状況】 95.8 ・縦割り班を中心によく清掃されていた。短縮日課の時には、6年生を中心にトイレや階段の自主清掃に取り組むことができた。 ・年度末に縦割り班による大掃除を実施することができた。 ・無言清掃を放送等でよびかけたが、定着は不十分だった。 【次年度の方針】 ・引き続き、清掃指導を徹底し、無言清掃への意識付けを図る。 ・学習にふさわしい環境づくりに努める。 ・児童のより良い学習環境作りのために、予算を有効に活用し、教材等の充実を図る。

教育活動の状況	生 活	A10 学校は、小学生や中学生が連携した取り組みを主体的に行っている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、小学校と中学校が連携した「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている」→保護者の肯定的回答80%以上	① 中学校との相互乗り入れ授業の充実を図り、TT指導を実施していく。 ② 行事や児童会活動・集会活動等での交流を実施していく。 ③ 学力向上支援員の活用を図り、地域学校園全体での共通課題の達成を目指す。	【達成状況】90.5 ・音楽朝会・あいさつ運動・陸上大会合同練習・相互乗り入れ授業の実施は児童にとって有意義であった。 B 【次年度の方針】 ・相互乗り入れ授業の一層の充実を図り、TT指導を実施していく。 ・情報交換を密にし、カリキュラムマネジメントによって学習活動の充実を図る。
		A11 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 「時と場に応じたあいさつ」→児童の肯定的回答90%以上	① あいさつ強化週間や中学校との合同あいさつ運動を活性化し、全児童が積極的に運動に参加できるようにする。 ・あいさつテーマソングの制定 ② 学校便りや懇談会で保護者や地域に協力を呼びかけ、地域を巻き込んだあいさつ運動を展開する。 ・家庭での習慣化 ③ 地域に向けたあいさつについて、学年に応じて、学級単位で指導を継続する。	【達成状況】89.9 ・あいさつ運動の効果により学校内であいさつの意識は高まりつつある。地域や家庭でのあいさつがしっかりできていない傾向が見られる。 【次年度の方針】 ・あいさつ運動の活性化を図り、全児童が積極的に運動に参加できるようにする。 ・地域に向けたあいさつについて、学年に応じて、学級単位で指導を継続する。 ・「あいさつ大賞」の推薦基準に、家庭や地域でのあいさつを含め、学校内外でのあいさつの充実を図る。 ・家庭でのあいさつ強化を啓発し、保護者や地域を巻き込んだあいさつ運動を展開する。 B
		A12 児童は、時と場に応じた言葉づかいをしている。 【数値指標】 「時と場に応じた言葉づかい」→児童の肯定的回答の85%以上	① 毎日の授業・生活において、時と場に応じた言葉遣いができるよう指導する。 ・「～さん」と呼ぶ指導 ・他の教室や職員室への入り方の指導 ・目上の人に対する言葉遣いや正しい敬語の使い方についての国語科での指導。 ② 学年便り・学校便りや懇談会等で、家庭や地域に協力を呼びかける。 ③ 教室に発表の仕方の例を掲示し、正しい言葉による話し方の指導をする。	【達成状況】79.2 ・正しい言葉づかいについての意識は高まってきたが、時と場に応じた言葉づかいが十分にできていない。 ・家庭や地域での正しい言葉づかいが身につけていない。 【次年度の方針】 ・目上の人に対する言葉遣いや正しい敬語の使い方ができるよう国語科を中心に指導する。また、具体的な指導を実施し、言語による表現力を高める。 ・心の教育を通して心の耕しを図り、相手を思いやる言葉づかいができるようにする。 ・職員室の出入りの声かけについて具体的に学級で指導する。また、授業中は必ず「～さん」づけをさせる。 B

		B2 教職員は、心の教育を中心にすえた学習活動と特別活動の推進に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員アンケートの「心の教育と特別活動の推進に取り組んでいる」→教職員の肯定的回答90%以上	① 豊かな感性の育成を目指した読書活動の推進。 ・ボランティアによる読み聞かせ ・読書週間の活用 ・図書館司書による選書の支援 ② 自ら読書する時間の確保と指導の工夫を図る。 ・読書ファイルの活用 ・朝の読書の活用 ③ 道徳では、人権や命について、保護者参加など工夫して、授業参観等で公開する。 ④ 小中連携した「宮っ子心の教育」を推進する。 ⑤ 「わたしたちの道徳」を年計との関連を図って積極的に活用する。	A	【達成状況】100 ・読書週間や学校司書・読み聞かせボランティア・にじいろの会などとの連携により、読書活動を積極的に推進することができた。 【次年度の方針】 ・一人一人の読書の質の向上を図る。 ・土曜日・日曜日・長期の休みなどの読書時間の確保について、保護者へ啓発していく。 ・「命の授業」や「人権の授業」を保護者に公開したり、親子学習にあてたりして、保護者への啓発を行う。 ・道徳科授業を充実させる。
		A13 児童は、休み時間や放課後などに積極的に運動している。 【数値指標】「積極的に運動している」→児童の肯定的回答の85%以上	① 体育の授業と関連させて、児童が自主的に運動できるサーキット等を、工夫する。 ② 夏季休業・学期間休業・冬季休業などの長期休業期間中に、児童が自発的に運動に取り組めるようなカードを作成し、活用する。	B	【達成状況】88.4 達成 ・西岡タイムや体力作り月間を中心として、多くの児童が運動していた。長期休業にチャレンジシートを活用し、運動する児童が増えた。 【次年度の方針】 ・引き続き児童が自主的に運動できるように、チャレンジシートの工夫をする。
	健康・体力	A14 児童は、好き嫌がなく給食を食べている。 【数値指標】全体アンケートの「好き嫌がなく給食（食事）を食べている」→保護者の肯定的回答80%以上	① ランチルームで食育の話をしたり、生活チェックシートを活用して個別指導（担任・養護教諭・栄養士等）をすすめたりする。 ② 「おべんとうの日」には、学年に応じて栄養のバランスを配慮した献立が立てられるようにワークシート等を活用して支援する。 ③ 保護者から募集した好き嫌い克服メニューを献立に取り入れ、家庭への啓発を図る。 ④ 嫌いなものが食べられた記録を残し、家庭で評価してもらう事で、児童の頑張りや成果を保護者に広める。 ⑤ 「親学」に「食育」をとり入れる。	B	【達成状況】66.0 ・保護者から募集したメニューを献立に取り入れたり、職員のリクエスト献立の実施により残菜の減少・嫌いなものが食べられたという児童の増加は見られたが、保護者への周知が足りなかった。 【次年度の方針】 ・嫌いなものが食べられた記録を残し、家庭で評価してもらう事で、児童の頑張りや成果を保護者に広める。
		B1 児童は、交通のきまりを守って登校している。 【数値指標】 「きまりを守って登校している」→児童の肯定的回答90%以上	① 月1度の登校指導や一斉下校の際に、目標を決めて交通指導を実施し、登校班への個別支援をするとともに、児童への啓発をより充実させる。 ② 交通安全教室等で、交通安全について徹底を図る。 ③ 安全ボランティアを募り、家庭・地域と協力して、登下校の見守りをする。	B	【達成状況】96.4 (地域75.0) ・月1度の登校指導や一斉下校を通して登校班への個別支援、児童への啓発を行うことができた。 【次年度の方針】 ・学年下校については、月1回、西岡ゴールデン（水）に集まり、安全な下校についての指導、確認を行う。班を編成しなおす場合も、この時間を有効に使うようにする。

		B4 教職員は体力チェックや生活アンケートを実施し、健康・体力面での個別指導をしている。 【数値指標】 「体力チェック等を実施し、個別に指導している」→教職員の肯定的回答90%以上	① 体力チェックや生活アンケートを実施し、個別指導に生かす。 ・外遊びの奨励と日常的な運動による体力作り ・朝の1分間運動の実施 ・歯磨き指導 ・姿勢の改善と視力向上に関する意識づけ ② 委員会を活用し、健康に関する児童の意識を高めていく。	B	【達成状況】100 達成 ・1分間運動を実施でき、運動に親しむことができた。 ・保健委員会や栄養士による歯磨き指導・姿勢の改善指導を実施し、児童の意識を高めることができた。 【次年度の方針】 ・引き続き、体力作りを実施していく。また、健康に関する児童の意識は委員会を活用し、伝達していく。
		A15 児童は、授業中に進んで話し合い、分かりやすく発表するなど積極的に学習している。 【数値指標】全体アンケートの「児童は、分かりやすく発表するなど、積極的に学習している」→児童の肯定的回答85%以上	① がんばりカードや音読カードを活用し、自分の学習をふりかえることができるようにする。 ② 「話し方、聞き方の基本」を作成し、ノートなどに貼り付けて活用する。 ③ 自主学習内容を自分で決めて連絡帳に書くなど、保護者にも児童の取り組みの様子が分かるようにしていく。自主学習がうまくできない児童には、自主学習ノートの基本パターンを作るなど、具体的な支援策を考え全校体制で実施する。	A	【達成状況】89.9 達成 ・進んで授業中話し合いができるようになってきた。 【次年度の方針】 ・各教科で意図的に話し合いの機会を設け、司会進行・質問・感想などが伝え合えるように指導していく。
	学	A16 児童は、授業中に先生や友達の話聞くなど落ち着いて学習に取り組んでいる。 【数値指標】 「授業中、落ち着いて学習している」→児童の肯定的回答85%以上	① 学習の決まりについて学校全体で共通の取り組みを推進する。 ・授業開始や終了時の時刻の遵守 ・あいさつを遵守 ・正しい言葉遣いの奨励 ② 「聞くこと」を重視し、約束を共通理解の上、根気強く継続指導する。 ・話し手を見て、話に耳を傾ける。 ・最後まで黙って聞く。(質問は最後にする)	A	【達成状況】84.5 課題 ・休み時間5分で教室移動などに無理があり、授業開始時間に遅れるなど落ち着いたスタートができないことが見られた。 【次年度の方針】 ・日課を変更し休み時間を10分間にし、休み時間の過ごし方の指導を徹底することで教室移動の時間を確保し、授業開始時落ち着いて始まるようにする。
	習	B5 児童は、宿題や習ったことを復習するなど、すすんで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「授業で習ったことを復習するなど自主的な学習に取り組んでいる」→児童の肯定的回答80%以上	① 西が岡小「家庭学習のすすめ」を活用し、学年に応じた家庭学習の習慣化を図る。 ・音読と発達や個人差に応じた宿題の徹底 ・学年や個人差に応じた自主学習の進め方の指導 ・家庭学習の時間・やり方・内容の提示 ・学級懇談等での保護者への啓発 ② 自主学習大賞などを通して、良い取り組みについて児童や保護者に知らせていく。	A	【達成状況】82.7 ・「進んで」という言葉にやや抵抗があるのか82%台になっているがほぼ宿題には取り組み、自主学習にも進んで取り組む児童が増えてきている。 【次年度の方針】 ・高学年では「リレー自主学習」ノートを作成しグループ内で自主学習ノートをリレーし児童同士良い取り組みについて理解できるようにする。また、家庭に持ち帰ることで、保護者にもどんな内容で自主学習に取り組めばよいのか具体的に理解してもらえるようにする。 ・後半のチャレンジ週間では「よい自主学習ノート賞」を各学級で取り上げ賞賛したり掲示板でよいノートを紹介したりする。

本校の特色・課題等	B3 縦割り班活動を積極的に 行い思いやりの心を育てて いる。 【数値指標】 教職員アンケートの「縦割り班 活動を積極的に行っている。」 →教職員の肯定的な回答9 0%以上	① 異学年の交流活動を上級生がリーダーになり 主体的に行う。 (花はなタイム・遊友タイム・清掃活動等) ② 班対抗のゲームや活動を取り入れて、継続的 に高学年がリーダーとなる場づくりを推奨す る。(遊友タイム、運動会)	A	【達成状況】95.2 - あらゆる場面において上級生が活躍できた。 - 運動会や西岡タイムに縦割り班で行う種目・ゲームを取り入れたが児童間の協力が見られ効果的だった。 【次年度の方針】 - 継続的に高学年がリーダーとなる活動の場を推奨する。
	B6 地域人材を活用した教育活 動を推進している。 【数値指標】 教師アンケートの「地域人材を 活用した教育活動の推進」→教 師の肯定的な回答90%以上	① P T Aや地域協議会等を活用し、生活科・総 合的な学習・家庭科などでさらに充実した体験 活動を推進する。 (ふるさと教室、読み語り、学習会、農業体験、栽培活動、ミシンボランティアなど) ② P T A学年委員、地域コーディネーターを活用して、活動内容の事前打ち合わせを行い、充実を図る。	B	【達成状況】100 - 地域協議会や保護者等と連携し、体験活動の活性化や充実が図れた。 【次年度の方針】 - P T A学年学級委員・地域コーディネーターを活用して、生活科・総合的な学習・家庭科などの学習の支援をさらに充実させる。 - 事前に地域人材の支援が必要な学習活動を洗い出し、ボランティア登録していただくようにする。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・「授業や生活の決まりやマナー」については、教職員・保護者・地域住民・児童ともに、肯定的割合が大きく上昇した。引き続き、全職員で指導を徹底し、学業指導の充実を図っていききたい。
- ・「いじめ対策」については、児童・教職員・地域住民・児童ともに肯定的割合が上昇した。引き続き、学校の具体的な取組や児童の姿を積極的に発信し、開かれた学校作りを進めて、地域・保護者と協力して取り組んでいきたい。
- 「小中一貫した取り組み」については教職員・保護者・地域住民・児童ともに90%以上の肯定的回答率であった。今後は活動の質を高め、内容の充実を図っていききたい。
- ・「あいさつや言葉づかい」については、保護者・地域住民の肯定的回答の割合が上昇しているが、まだまだ不十分である。家庭や地域においてもあいさつや正しい言葉づかいができるよう、保護者や地域住民と協力して改善していききたい。
- ・「食育」については教職員と保護者の意識に差が見られる。学校での食育の取り組みを発信するとともに、家庭での指導の啓発を図りたい。
- ・「家庭学習への取り組み」について少しずつ保護者・児童の意識の高まりが見られるが個人差も多い。引き続き家庭に協力を求めるとともに、各学級で意欲付けを図っていききたい。

6 学校関係者評価

- ・あいさつをよくしてくれるようになり、声掛けしやすくなった。子どもたちが落ち着いているのがよくわかる。
- ・安全ボランティアが増え、あいさつなどが活気が出て、子どもたちが元気になった。大人が見守っているという安心感を感じるのではないかな。いつも子どもを見ているということを伝えていく必要がある。
- ・親がきちんとした言葉遣いを教えていく必要がある。家庭教育が大切。
- ・児童は、自分たちの言動について厳しく評価していることに驚いた。
- ・長い期間関わっていると、子どもたちが着実に成長している様子が見られ、素晴らしいと思う。
- ・子どもたちの活動の写真などを見ると、笑顔がたくさん見られ、学校での活動が楽しい様子がよくわかる。

7 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

- ・学校での教育活動全般に対して肯定的回答率の割合は上昇している。今後も学校・家庭・地域が一層連携して、家庭学習、言葉遣いやあいさつ、交通ルールの順守など、児童の健全な育成に努めていく。
- ・引き続き、落ち着いた学校生活が送れるよう全職員で指導に当たるとともに、いじめ対策等、日常的・重点的な児童指導について、より一層の情報発信や公開を実施し、地域や保護者とともに児童の豊かな心の醸成を図っていく。
- ・学習では、総合的な学力の向上が図れた。引き続き、基礎基本の定着に向けて、教師の授業力向上に努めるとともに、望ましい学習態度の徹底や家庭学習の習慣化が図れるよう家庭と連携していく。